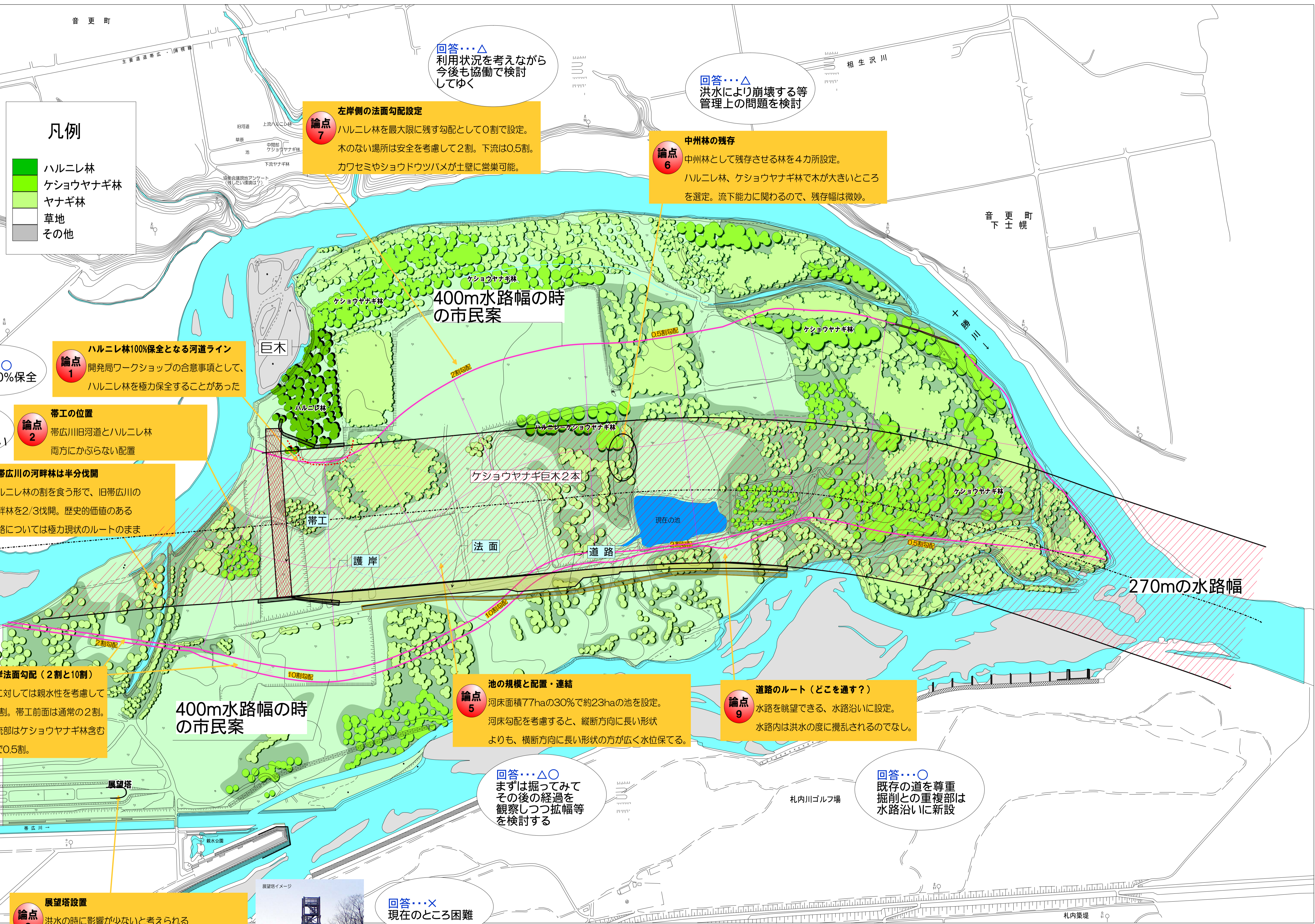


十勝川相生中島 計画平面図



凡例

- ハルニレ林
- ケショウヤナギ林
- ヤナギ林
- 草地
- その他



論点 7 左岸側の法面勾配設定
 ハルニレ林を最大限に残す勾配として0割で設定。
 木のない場所は安全を考慮して2割。下流は0.5割。
 カワセミやショウドウツバメが土壁に営巣可能。

論点 6 中州林の残存
 中州林として残存させる林を4カ所設定。
 ハルニレ林、ケショウヤナギ林で木が大きいところ
 を選定。流下能力に関わるので、残存幅は微妙。

論点 1 ハルニレ林100%保全となる河道ライン
 開発局ワークショップの合意事項として、
 ハルニレ林を極力保全することがあった

論点 2 帯工の位置
 帯広川旧河道とハルニレ林
 両方にかぶらない配置

論点 3 旧帯広川の河畔林は半分伐開
 ハルニレ林の割を食う形で、旧帯広川の
 河畔林を2/3伐開。歴史的価値のある
 水路については極力現状のルートのまま

論点 5 池の規模と配置・連結
 河床面積77haの30%で約23haの池を設定。
 河床勾配を考慮すると、縦断方向に長い形状
 よりも、横断方向に長い形状の方が広く水位保てる。

論点 9 道路のルート（どこを通す？）
 水路を眺望できる、水路沿いに設定。
 水路内は洪水の度に攪乱されるのでなし。

論点 4 右岸法面勾配（2割と10割）
 池に対しては親水性を考慮して
 10割。帯工前面は通常の2割。
 下流部はケショウヤナギ林含む
 ので0.5割。

論点 8 展望塔設置
 洪水の時に影響が少ないと考えられる
 堤防上に設定。池と水路上流部を眺望
 できる。木が少ないので、見通しが良い。



回答...× 現在のところ困難

回答...△○ まずは掘ってみて
 その後の経過を
 観察しつつ拡幅等
 を検討する

回答...○ 既存の道を尊重
 掘削との重複部は
 水路沿いに新設

回答...○ ほぼ100%保全

回答...○ ハルニレ林にも
 帯広川にもかぶらない

回答...○ 1/3程度の伐開で済む

回答...△ 利用状況を考えて
 今後も協働で検討
 してゆく

回答...△ 洪水により崩壊する等
 管理上の問題を検討

回答...△ 利用状況を考えて
 今後も協働で検討
 してゆく

音更町
下士幌

札内築堤

札内川ゴルフ場

巨木

ケショウヤナギ巨木2本

現在の池

270mの水路幅

400m水路幅の時の
市民案

400m水路幅の時の
市民案